




# CONTENTS

vol.2

- | ICTの普段使いで学びの保障を
- | オンラインで授業配信
- | オンライン授業での著作物の使用

見たい項目をクリック 

ご意見、ご感想をこちらのフォームからお寄せください。→



# 1人1台タブレット端末

## ICTの普段使いで 学びの保障を

### ICTで児童生徒とつながる

今回は、児童生徒がICT端末に触れる機会を増やすことから始め、日常的に使っていく習慣を作る重要性についてお伝えしました。普段使いの習慣が身につくことは、学びの保障につながります。デジタルではいつでもどこでも即時的に教師と児童生徒がつながることができるというメリットがあり、非常時にも児童生徒の学びの保障を実現してくれるものです。

#### 連絡手段にICTを

児童生徒がオンラインで学校や教師と接点を持っていれば、非常時でも学びを継続することができます。「学びを保障する」という学校の役割を考えると、ICTによる連絡手段は学びを支える重要なライフラインと言えます。

#### 公式IDの積極的利用を

児童生徒に対し、学校が児童生徒一人ひとりに公式ID（メールアドレス）を発行することは、ICTの普段使いに欠かせません。公式IDがあれば、迅速な連絡手段を全ての児童生徒に対して提供できます。また、お互いにプライベートなSNSを使うことなく連絡を取り合うことも可能となります。

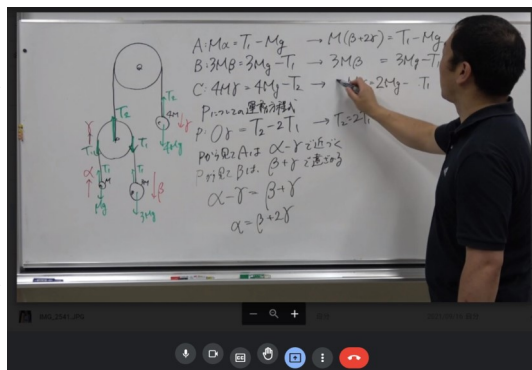
# オンラインで授業配信

## オンライン授業の形態と活動

オンライン授業といっても、様々な形態があります。従来のように配信するのみの形態ではありますが、オンラインならではのメリットを利用した活動を取り入れてオンライン授業を行うこともよいでしょう。

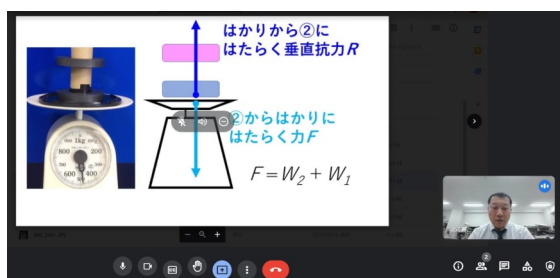
### ビデオカメラで授業風景を映して配信する

黒板やホワイトボードを使った教室で行われている授業を、そのまま配信する方法です。一部の児童生徒は教室で授業を受けていて、一部の児童生徒がオンラインで参加している場合などは、このような形態が有効です。また、いつもの先生が登場することで児童生徒から一番好評のようです。



### パワーポイントなどでスライドを表示しながら説明を入れる

全員が個人のモニターを見ながら授業を受ける場合は、少々細かい字や図も見ることができるのがメリットです。画面共有でスライドを提示して説明を行います。



### 動画で作った説明や課題を利用する

動画教材を作っておくと、見逃したり聞き逃したりしたところや、分かりにくかったところを繰り返して視聴することが可能です。このようなメリットを生かしたオンデマンド教材も有効です。



## 授業風景を配信するには

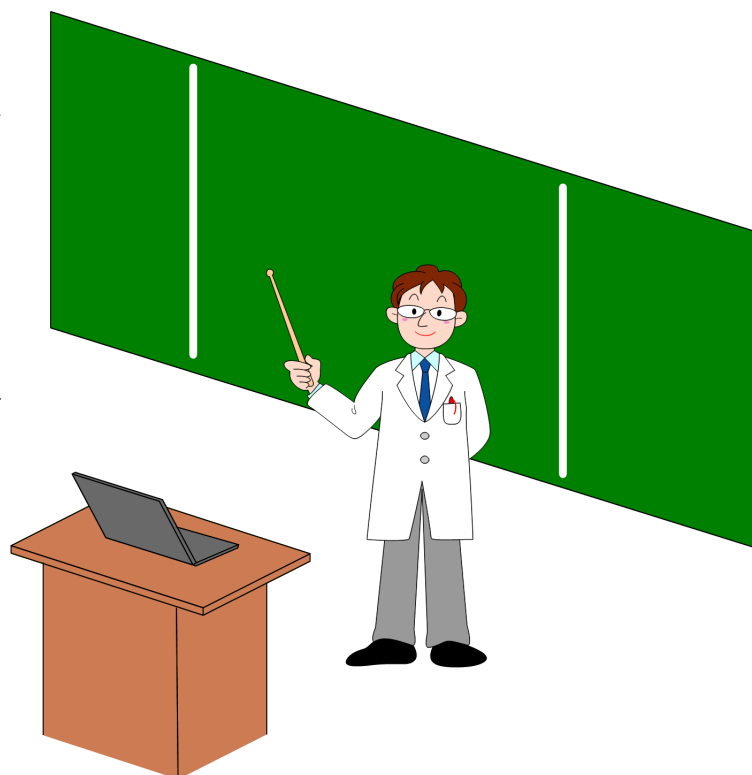
教室で行われている授業を配信する際の方法とポイントです。まずは、授業を始める前に、配信用の端末(教員の端末)をどこに配置するかを決め、設置します。

### 端末は、内蔵カメラで黒板やスクリーンをとらえられる位置に

端末の内蔵カメラの角度を調整して、黒板が大きく映る位置に置きましょう。

端末を置く位置を決めたら、映っている範囲がどこまでなのかを把握するために、黒板に線を引くなどをして、板書の範囲を決めることも必要です。

このように端末だけでもオンライン配信は可能です。



### マイクで音声を拾うことができる位置に

端末に内蔵されているマイクは、テレビ会議アプリが感度のある程度自動調整します。設置したら「マイクのテスト」で音声が拾えるかを確認しましょう。

## カメラとマイクを取り付けて、より見やすく、聞きやすく

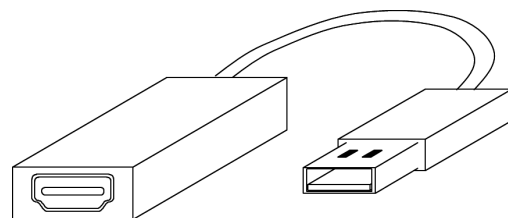
端末内蔵のカメラやマイクでは限界があるため、外部カメラやマイクを取り付けて配信するとよいでしょう。

### Webカメラを使う

USBで接続し、画面上部に取り付けるカメラで、高画質で画角が広いものが多いです。

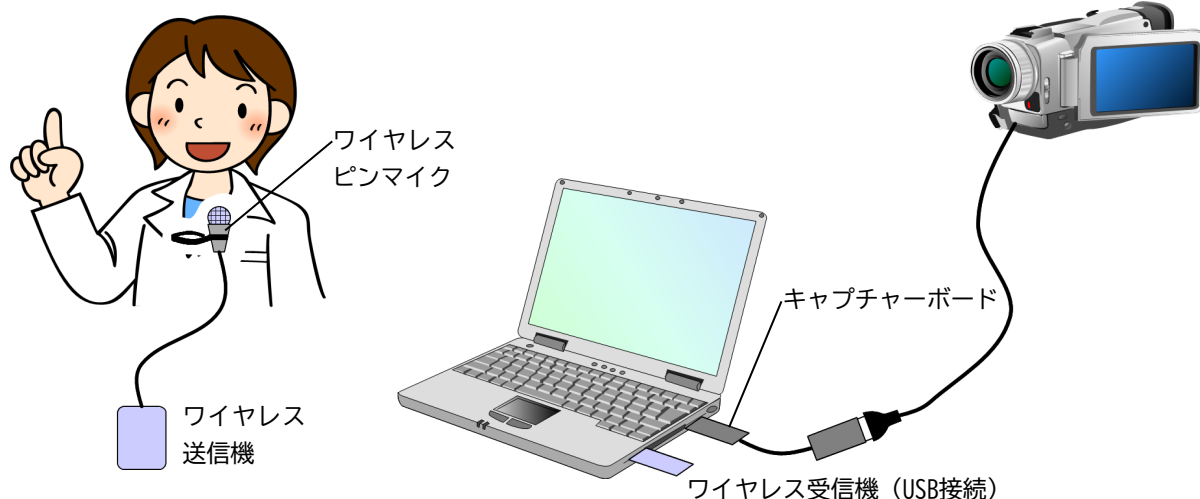
### ホームビデオカメラを使う

ホームビデオカメラは性能もよく、三脚も使用できるので便利です。しかし、HDMI出力が主流なので、配信用端末に直接接続することはできません。(端末についているHDMIの端子は出力用なので、この端子でカメラと接続してもカメラの映像を取得することはできません。)この場合は、USB接続でHDMI入力を可能にする「キャプチャーボード」(右図)を使用することで接続できます。



### ワイヤレスマイクを使う

授業をするとき教員は常に同じ位置にいるとは限りません。どこにいても教員の音声を拾うようにするには、無線で接続されるマイクの使用が必須です。ワイヤレスマイクは、USBで端末に接続するレシーバーと、送信機が付いたピンマイクのセットで市販されており、ペアリングなどの設定が不要で簡単に扱えます。



## スライドや動画を利用して授業を行う

児童生徒1人につき1台の画面を見ているので、スライドや実物投影機を使うと、より効果的に、はっきりと教材を提示することができます。

### スライド画面だけでなく、教員の顔も映す

画面共有を行うと、基本的には全画面にスライドが表示されます。その際には教員の顔も映るような設定にしましょう。児童生徒にとってはスライドのみを見て授業を受けているのに比べて、顔の表情や口の動きが見えた方が集中力を保ちやすいようです。

### 様々な活動や形態を組み合わせた構成を

黒板を使う、スライドを使う、動画を視聴する、課題に取り組むなど、様々な活動を取り入れ、双方向通信やオンデマンド教材などの形態を組み合わせて行うことで効果的にオンライン授業を進めましょう。

### 【授業の構成例】

時間	内容・方法	形態
5分	本日の授業のポイント 出欠調査・顔合わせ	顔出しありで双方向
10分	動画を使う ワークシートを使う AI教材を使う	オンデマンド
10分	個人やグループで演習や作業に 取り組む 学習支援アプリで意見共有	双方向
10分	解説スライドを画面共有する 黒板を投影する	一斉配信・双方向
10分	意見共有	顔出しありで双方向

# オンライン授業での著作物の使用

## 「授業目的公衆送信補償金制度」の開始

教育機関の設置者（教育委員会）が指定管理団体（SARTRAS）に補償金を支払うことで授業目的の公衆送信（生徒がいない場所で授業をオンライン配信する、クラウドサーバーにアップロードするなど）において著作権の権利者に無許可で著作物が使用可能になります。



対面で授業を受けている生徒が1人もいない状態の「完全オンライン授業」



Googleクラスルームやロイロノートなどのクラウドサーバーを活用した授業

### ○年間で払う場合（1人あたり）

大学 720円 高校 420円 中学校 180円 小学校 120円 幼稚園 60円

※福井県の県立学校は全て年間で契約しています。

※福井県の市町は約半数が年間で契約しています。

### ○都度払う場合（1人あたり）

1回10円

**※対面授業で認められていたことが、オンラインではNGということも！**

**→今まで以上に著作権についての理解が必要です。**

詳しい情報はこちら… SARTRASホームページ <https://sartras.or.jp/seido/>

## ○×クイズに挑戦！

著作権に関して、次の問題に○か×で答えましょう。

- ① 指定管理団体 (SARTRAS) に補償金を支払わなくても、新聞に掲載された記事や写真をコピーして授業に使う資料を作成し、この資料を印刷して対面で授業を受けている生徒に配布することができる。
- ② 指定管理団体 (SARTRAS) に補償金を支払えば、教科書や複数の新聞記事等を抜き出してプレゼンテーションソフトでまとめたものを、クラウドサーバーにアップロードすることができる。
- ③ 指定管理団体 (SARTRAS) に補償金を支払えば、教員が教科書の大部分をスキャンして作成したデジタルデータを、児童生徒に送信することができる。

### 解答

- ① ○ 対面の授業の場合、授業者が新聞記事を活用した教材を作成し、生徒に配布することは可能です。
- ② ○ クラウドサーバーを活用した授業の場合、指定管理団体 (SARTRAS) に補償金を支払えば新聞記事を活用した教材をアップロードして生徒に配信することができます。
- ③ × 指定管理団体 (SARTRAS) に補償金を支払えば全ての場合で著作権の権利者に許諾が不要になるわけではありません。この場合は、授業で使用する一部分の送信にとどめる必要があります。